

エゾマツ



No. 36

1996. 3. 25

北海道ボランティアレンジャー協議会

目次

1. 巻頭言 森に話ができる今を喜ぶ 会長 大友 健 (1)
2. 自然 (じねん) (2)
3. 野幌森林公園休養園地区の整備について 課長補佐 徳岡 静雄 (3)
4. 定期総会要項 (4)
5. 会員の声 (5)
6. ことばの解説 (9)
7. 2月の観察会「滝野の自然」 研修部 五十嵐一夫 (10)
8. 蝶にあいたくて PARTII 藤田 正次 (11)
9. とどのつまり 川端 功治 (16)
10. 本の紹介 (19)
11. 観察会研修会情報 (20)
12. 編集後記 (23)

森に話ができる今を喜ぶ

会長 大友 健

陽春の光が、雪面にまぶしく反射するこのごろの、円山原始林内には、樹木の息吹きが肌身に感ずるようである。

大木の幹の下部周囲には、間げきができ日中の樹幹温度と、夜の気温とのメカニズムを知らされる。時に心は一転して、40年程前の寒冷多雪地方における、森林施業上の気象災害が、植栽木に病菌類をまん延させ、被害木が多数発生した、暗い思い出につながった。

近年に至っては、樹木が森の環境づくりをしている関連など、かつての反省にたって自然力の活用という、技術革新の導入が当然とされていることを、心より喜び、私は森に話しかけることが出来る一人になったのである。

あのころは、森林の総成長量の範囲内で伐採し、跡地は適地適木の造林や、天然更新促進の事業をと、人々は英知を絞り、森林の経営方針に基づき施業基準を策定し、審議の場を経て実行に移されたのであった。

自然の生態を、人間が英知とって決定づけ、数量計算し無理な条件が予想されると、危険率と言う数値で総数に減を加え、実行に移すことの役割を主導的に演じた何年かは、数字の責任から気が休まらぬ時もあり、山林行政とはと、多くの矛盾を感じた壮年期でもあった。

自然は、確実に季節の変化に伴い、植物に四季それぞれの生活作用をあたえ、それらは年年の繰り返しを重ね、安定した林相、植相を大地に根付かせ、それらは自身にて森林環境を作り、地球規模の環境保全に大きく寄与している、これら原始の森を見るとき大きな感動を覚えるのである。

時は大きく流れ、人間は森に自然の恵みをいただくと、日常的に用いられる時勢になり、人間の英知は自然力を十分に考慮した、木材利用の姿を見聞し、造林学は、森林学になったと喜び、仲間の人々と活動する今なのである。

自然（じねん）

「自然」という言葉は、江戸時代の蘭和辞典に「natuur」を訳して「自然」となったと言われています。もっと時代を遡って、親鸞の「末燈抄」という書の中にも「自然」という言葉があり「じねん」という読み方であったといえます。自然は「じねん」すなわち「おのずからしからしむ」ものであり、ありのままあるのが自然なのでしょう。

日本自然保護協会会長 沼田真氏は、自然環境保護の第一に掲げねばならぬことは、自然が好き、生物が好きというやむにやまれぬ気持ちだと語っています。これは理論以前のことで、自然が好きという心の問題であり、「じねん」の世界からの出発の思想だと思うのです。

ギリシャ時代の自然哲学派は、自然の営みに関心をよせ、自然の中に身をもって飛びだし自然の真理を求めました。

自然（じねん）こそ人間の根源なのでしょう。

1月以降の活動

- 1月11日（木） ・ 森林公園事務所主催 1月の森の観察会 協力参加
- 1月19日（金） ・ 役員会 於：かでの2・7
- 2月20日（火） ・ 記念事業実行委員会 於：かでの2・7
- 2月25日（日） ・ 観察会「滝野の森を歩く」 滝野ずらん丘陵公園
(2月18日 下見)
- 3月 3日（日） ・ 森林公園事務所主催「冬の森の観察会」協力参加
野幌森林公園大沢口 (下見 3月2日)
- 3月21日（木） ・ 記念事業実行委員会 於：かでの2・7
- 3月29日（金） ・ 三役会議 於：かでの2・7
- 4月 5日（金） ・ 役員会 於：かでの2・7
- 4月13日（土） ・ 平成8年度 定期総会 於：かでの2・7 (13:00~)

野幌森林公園休養園地区の整備について

課長補佐 徳岡 静雄

ボランティア・レンジャー協議会の皆様には、常日頃北海道が企画する各種事業に積極的に参加ご協力を頂いているとともに、自然保護思想の普及に尽力されていることに厚くお礼を申し上げます。今回は、皆様が本拠地とも言える程にご活躍頂いている野幌森林公園の休養園地区整備（特に自然誌ふれあい交流館）について触れてみたいと思います。

長年の懸案であった休養園地区の整備も平成7年度末に「休養園地区整備基本計画」が策定され、平成8年度道予算に一期工事である自然観察園区の基本設計費や「自然誌ふれあい交流館」の工業高校生による設計コンクールを行う経費を予算化する事としており、本格的に整備が進められるものと考えております。

特に、「自然誌ふれあい交流館」は、平成9年度設計平成11年度開館を目指しており、自然学習の場、利用情報の提供の拠点として展示室・図書室・レクチャールーム・解説員室などを整備し、皆さんのようなグループや団体の研修は基より、観察会や講演会等の行事に利用していただく拠点となるものと考えています。

○ 整備の主な内容

(1) 自然観察園区（平成9年～平成11年度整備）－I期工事－

自然誌ふれあい交流館、いこいの広場、公衆便所、観察歩道、連絡車道、駐車場等

(2) 自由広場区(平成12～14年度整備) -Ⅱ期工事-

自由広場(多目的広場、四阿、公衆便所)、連絡歩道等

(3) 森林造成区(平成15年度～平成17年度整備) -Ⅲ期工事-

植栽、天然更新、開拓記念館及び開拓の村との連絡歩道

以上、平成17年度までの整備計画としておりますが、できるだけ自然環境の改変は行わないほか、高齢者や身体に障害のある方の利用も容易な施設となるよう配慮することとしておりますが、今後も皆様のご意見等もお聞きしながら整備を進めて参りたいと考えておりますので、より一層のご協力をお願いしたいと思います。



平成7年度第11回北海道ボランティア・レンジャー協議会

定期総会要項

日時：平成8年4月13日(土) 13:00～19:30(6時間30分)

場所：「かでる2・7」10階 視聴覚室 ……………研修会・総会

「ユック」北1通5丁目 札幌ビルB1 222-2592 ……………懇親会

研修会 13:00～14:50(1時間50分)

「樹木に魅せられて」<北海道の樹木と民族>の著者 伊達興治氏(札幌市)

13:00～13:40(40分間)

「森の案内人をめざして」 浅野正嗣氏(江別市)

13:40～14:20(40分間)

「江別のホテル」 西脇昭夫氏(江別市)

14:20～14:50(30分間)

総会 15:00～17:00(2時間)

懇親会 17:30～19:30(2時間)

会員の

声

札幌市北区 田中 利男

札幌、特に北・東区に毎日これでもかこれでもかと空から落ちてくる雪。家の前・横へと積み上げる人たち。楽しそうな顔をしていません。

2月に入って、町内会の排雪に、4日間付き合いました。出来るだけ楽しそうな顔をして歩きました。「これで、雪の置き場所ができた」と言う方がいましたが、道路確保のための排雪なのです。でも、この雪では嬉しがる気持ちもわかります。自然の成り行きは雪だが、人間の便利性に害するとされ、どんどん移動。気の遠くなるような金額を使う。

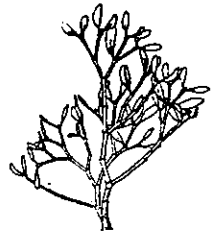
雪、この美しさ、豊作を願い、この年も水道の心配はないわいと、恵みとして笑って過ごし、雪もまた友達と言えるのも我家に融雪機なる自然に反する物体があるからか。ゴメン。近頃ボラレン活動も何かと出席少し。あわせてゴメン。

小樽市 若山 戒三

この度はご連絡頂きありがとうございます。広報部のお仕事、ほんとうに御苦労様です。この冬の豪雪にはすっかりまいりましたが、春はもうすぐそこです。雪には負けられないので「歩くスキー」に汗を流し、76歳の春を過ごしています。

今年も、予想もしなかったようなこと、悲しい豊浜トンネル崩壊事故発生、尊い生命が奪われました。自然破壊も続きます。

雪溶けと共に、自然保護のために少しでもお役に立てればと思っています。ご自愛下さい。



札幌市白石区 香 島 由美子

狐の子別れの儀式の厳しさに驚きましたが、松谷みよ子氏の番組で「今現代民話その発見と語り」の一部では、狐の嫁入りや、葬儀があると、次の日は葬式ごっこをし、汽車の開通した頃は、幻の汽車となって向かって来たそうです。そこで、稲荷神社として祭られたのかと考えました。

自然破壊に対する恐ろしさは忘れてはならないと、最近のトンネル事故で思い知らされた所ですが、20分前に気が付いた人が、すれ違ったバスに知らせていたらという思いが強く心に残りました。

札幌市東区 菊 池 秀 樹

昨年10月の末、職場仲間と晩秋の森林公園を散策中、突然上空に賑やかな鳴き声が響いてきました。

見上げると、白鳥の渡りでした。50羽程の群が整ったV字の編隊を組み、日の光を受けて輝きながら飛んでいくのです。

総数500羽程の大群でした。神々しさまで感じました。数日続いた低気圧の難を避けての満を持しての渡りだったのでしょう。厳しい大自然の中で生きている鳥たちの力いっぱいの生命力に心を打たれた一日でした。

札幌市豊平区 東 巖

三月に入ると今までの異常なまでの寒波と降雪が嘘の様に緩み始めました。日中の晴れ間から久し振りに降り注ぐ柔らかな陽光にあたりながら、雪下の草木達も春の息吹を感じとって、きっと芽吹き準備を始めていることだろうと思いは「春和景明」の季節をいつしか心待ちにしている今日此頃です。

さて、毎回ご送付下さる「エゾマツ」会報誌を楽しく読ませて頂き有難うございます。本誌の編集発行に携わる皆様各位のご努力に対し、厚くお礼申し上げます。

昨年4月から貴会会員になり、佐々木事務局長や先輩レンジャーの方々のご指導を得ながら、無事1年を過ぎようとしていますが、私も経験不足のため、8月に常呂町の自然観察指導員養成講習会と9月に洞爺村での青少年自然体験活動者養成講習会の前期と2月の後期に参加し有意義な研修で私なりに収穫がありました。

今後も各研修会に参加しながら、自己研鑽に努力を致したいと考えおります。なお洞爺村での講習会の後、風邪をひいて体調を崩し、滝野すずらん公園の観察会に参加できず残念に思っています。

広島町に昨年15名で発足した、グリーン・インストラクター連絡協議会の活動状況をお知らせします。

わたしが参加したのは、レクリエーションの森の観察会（下見1回）2回、野幌森林公園（トド山入り口）、わくわく自然愛ランド主催の観察会（三島林道）及び花市95の園芸相談など、回数は少ないのですが、その他に緑の羽募金活動、各公園の樹木の表示板設置、緑化樹の植えつけ指導、町内の公園・神社寺院などの樹木（名木）調査などの町役場に協力している。

なお、この会に参加して私なりに感じているのは、役員としてのモラルの問題もあろうかと思うが、全会員に連絡なしで、役員のみで活動する向きが多いようであり、〇〇ボランティア協会の役員と何ら変わらないと感じている一人である。全会員に連絡をし参加できない方は仕方ないと思うが？ 現在の役員の考え方では、何時かは自然と消滅するのではと思われる。これは私なりに感じています。

最後に、ボランティア・レンジャー協議会も発足し、本年度で10年という節目の年であり、野幌森林公園などの解説書（案内書）を作成されると聞いておりますので配布されるのを楽しみにしております。

今後も先輩レンジャーの皆さんの方々のご指導、ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。



札幌市西区 小山 賢一郎

生物（生命）の多様性。人と自然の共生など、二冊の本を読み野外で検証したい。

その際、「いかなる自然観に依拠するか」が肝要。科学論一辺倒《これを「かかし論」と私は呼ぶ》には疑問。

また、自然に親しむことは、国民的願望とはいえ『飲酒のともなわぬ交流は交流に
あらず』といわんばかりの活動組織・団体の多いこと。かつ、『紫煙』のおまけつき
である。「みんなで渡ればこわくない」の典型。この改善なくして、日本の環境保護
に夜明なし。

小山氏の所属している
「北海道自然と花の会」
の写真展の案内が寄せら
れていますので、会員の皆
様にお知らせします。



1996
北海道自然と花の会
写真展

移り行く四季の自然を撮影しました。是非ご来場戴き、
ご批判、ご指導戴ければ幸いです。

●とき/ 4月2日(火)~14日(日)まで
AM10:00~PM6:00 ■4/8(月)休館日
初日PM1:00より 最終日PM3:00まで

●ところ/ 札幌市写真ライブラリー 札幌市写真ライブラリー
札幌市中央区北2条東4丁目
(中央区北2条東4丁目)

出品者

青野 勝美	網野要二郎	東 清	青木 昭
岩間 英子	石橋 章	大森 敏久	大関 昌子
柿崎 巖	片田 貞子	金田 修吾	川面 周一
勤野 光男	北川 信夫	黒岩 幸子	小寺 忠
小山賢一郎	境 英雄	佐藤 昌子	志村 幸男
武田 五郎	辻 栄子	鳥井 睦子	中川 親善
西谷 歌子	野沢 保二	福島 幸一	川上 雄幸
森 尚敏	山城 正門	山崎 誠二	山口 春美
吉田 公克	横本 一男		

出品代表者 柿崎 巖 891-0586

北海道自然と花の会事務局(小寺) 791-7750

(出品作品) (紫煙-初夏のイナバ) (作品の大きさ) 半切(中サイズ) 花-白牡丹(水よう) () 四切(小サイズ)

ことば の 解説

ネコヤナギ

そのほかは つねの荒野や 猫柳

三月に入って木々の芽をよく観察すると、真冬のころとは違い、ふくらみを増しているのに気づきます。春を見つけに川辺にでかけると、ヤナギの仲間が、花をつけているのを目にします。人々が、ネコヤナギの枝を折ってきて、花瓶に飾ると、春はもうそこまできています。

ネコヤナギは川のほとりや湿地に生えるので、川柳の別名があり、ふっくらとした花穂を猫の尾に見立て、名付けられたとされています。このネコヤナギは、日本で自生するヤナギの仲間でもっとも早く開花します。

雄雌異株であり、生け花などに用いるのは、雄花のほうで、雌株は実を生じた後、柳絮（りゅうじょ）となり飛散します。ネコヤナギの樹皮は、強い解熱効果がありサルチル酸配糖体を含んでおり、解熱・鎮痛薬として使われていましたが、今はほとんど用いられていません。

ヤナギの仲間は、一般に川沿いに多く生えています。バッコヤナギとエゾノバッコヤナギは、むしろ、原野から丘陵にかけて多く生えています。バッコヤナギとエゾノバッコヤナギは非常に形が似ています。違っている点は、バッコヤナギは小枝の樹皮をはいだ時、縦に隆起線がみられるのにエゾノバッコヤナギは、この線がありません。よく、バッコヤナギをネコヤナギと呼ぶことがありますが、別のものです。

ところで、ヤナギは何種類ぐらいあるかと言うと、世界中には500種、日本では50種、これに、あいの子を加えると日本のヤナギは、約100種にもおよび、分類にもいろいろな説があるようです。

2月の観察会「滝野の自然」

研修部 五十嵐 一夫

平成8年2月25日、滝野すずらん丘陵公園は雲ひとつなく、おまけに風までないすばらしい天気です。自然観察会「滝野の自然」は予定どおりに10時に始まりました。参加者がとても少なく、たったの2班でスタートです。ただ協議会の仲間は参加者の倍の人数が集まり、一般参加の皆さんにはとても贅沢な観察会です。

溪流口の駐車場からちょっと下って案内所の前からアシリベツの滝の方向へ川に沿って疎林広場があります。この広場にはセルフガイドコースが設定されていて20本の木にNo.1から番号札がついています。1班は1番の木から、2班は20番の木から自然観察を始めました。

真冬の観察会ですから葉っぱはありません。草本類も雪の下。観察できるのは木の冬芽と樹形と木肌、去年の実、雪の上に残っている足跡、それに鳥たちです。葉がないと木の種類が分からないと思っている人が多いのですが、逆に他の特徴が際立って、葉のある時期には見えなかったものが見えてきます。

疎林広場はその名のとおりで、太くて立派な木はありません。15mほどのヤチダモ、ミズナラが一番の背高のっぼ。エゾマツやトドマツもありますが、これは後から植えたもので、せいぜい4mくらい。その代わりトドマツの背が低いおかげで普段あまり見ることの出来ないものを見つけました。トドマツの毬果の芯がしっかりと枝について残っていました。トドマツの毬果は枝から落ちません。トドマツ林には松ボックリが落ちてない事知ってますか？

冬でも緑を残しているヤドリギも、あんなにたくさんあった実はまったく残っていません。いよいよ鳥たちも食べ物が少なくなってきたようです。そういえば1月まではとても目立っていた街路のナナカマドの実も最近はずっかりなくなっています。

真新しい凍裂を見たり、頭と胸だけ残ってカツラの幹にしがみついているエゾハルゼミを発見したり、なかなか2月の観察会も素敵です。参加者の了解をいただいて、予定時間を30分オーバーして12時半に観察会を終了しました。

冬芽たちも春の芽吹きに備えてだんだんとふくらんできています。もうすぐ春ですねえ、来年は彼や彼女を誘って滝野の森に来てみませんか。

蝶にあいたくて PART II

—— 東大雪 ——

札幌市 藤田 正次

7月23日 土曜日 AM 3:00 起床。ふだんは、なかなか寝起きが悪いはずなのに、いざ、蝶に逢いにいくとなると、パシッと目がさめてしまう。持っていくものは、いつもの様に、昨日の夜のうちに車に積み込んである。テキパキと歯をみがき、顔を洗い、テキパキとトイレを済せる。いつもは、どちらかと言えばのんびりしている方だと思うのだが、こんな時だけは、本当にテキパキと音をたてるのが自分でもわかる。AM 3:30 車に乗り込む。

まずは、買い出し！ 昨年のアポイ岳登山で、うまくヒメチャマダラセセリに逢えたものですから、遠出をする時は、あの日と同じコンビニに買い物をする事にしている。秘かにゲンをかついでいるのである。当然の事ながら、オニギリの具にもこだわる。(ちなみに、すじこ・さけ・おかか)、これもいつもと同じなのである。という訳で、まずはそのコンビニへ真っしぐらに車を走らせる。

AM 4:00 買い出し終了。朝メシのサンドイッチをかぶりつき、缶コーヒーをゴックン！ いざ、出発！！ 今日の目的地は東大雪、それをもって、逢いに行く蝶の名前は、“カラフトルリシジミ”！ これまた、ヒメチャマダラセセリに続く、天然記念物シリーズなのであります。勿論、逢いにいくのも初めてなのです。そこで、北海道昆虫同好会の面々から、いろいろと情報を集め、計画実行日を今日と定めた訳ですが、予想通りにはたして彼に逢えるかどうか……。こればかりは行ってみなければ、やはりわかりません。何しろ、自然相手の事ですから空振りも付きものなのです。

ところで、彼が住んでいる場所というところ、高山帯、時に亜高山帯。すなわち、彼に逢うためには今日も山登りをしなくてはならないのです。やれやれ……。というのも彼の食卓がガンコウランなどの高山植物なのだから仕方がないのです。年1回の発生、翅の大きさはおよそ1cm程、雄の表翅の色は、その名の通りのブルー、一方雌は多少のブルーはあるものの、地色は茶系のいたって地味な色合いをしている。ともあれ、初めて逢えるかもしれない蝶の姿を頭に思い浮かべるだけでわくわくしている。

車は一路、国道274号線を東へ向かう。穂別を過ぎ、樹海ロードに入ると、小雨が降り出した。なんとなく天候が不安になってきたものの、走り出したからにはもう止まらない。“大丈夫、絶対に逢えるさ”と自分に言いかけながら、運を天にまかせ、ひたすら走る。が、ふと日頃の自分のおこないを考えると……ちょっと、不安？

そんな心配をよそに、日高町を過ぎ、日勝峠を越え、帯広側にぬけると、雨もやんできた。やっぱり、日頃のおこないも良かったみたいだな……。フムフムと妙に納得する私であった。

途中べらぼう真っすぐな道に出会う。走っても走っても周りの景色が変わらない。皆さんもそんな経験ありますよね！“デカイぞ、北海道！”って感じの道ありますよね!! やがて、車は大雪山国立公園エリヤに突入。途中、展望台に立ち寄る。生理現象を済ませ、ホッとため息！。なんたってずっとがまんしていたものですから。

そんなこんなで、目的地の登山口に到着したのは、AM 8:00 ぐらいかな？。いよいよ、にがてな登山の始まりです。最近カメラを3台持ち歩いている。1台は腰、1台はディバック、そしてもう1台はいつでもシャッターが切れる様に手持ちといった具合なのです。もちろん、カメラにセットしてあるレンズはすべて違うのです。

180mm マクロ、105mm マクロ、24mm 広角といった風に。でも実際その場になると3台をフルに使えるチャンスはほとんどないのです。だってさ、蝶たちはじっとしてくれないもんね！

さて、お気に入りのバンダナをしめて、いざ、登山出発！比較的、緩やかな登山道が続き、登り始めて20分程過ぎた時、ガサッ、ガサッ、ガサッ！それほど離れていない茂みで何か物音がする。明らかにデカイ動物がいる気配がする。ガサッ、ガサッビビる私。デカイぞ、これは！と思った瞬間、ヒョイト顔を上げた彼女の目と目が合ってしまったのです。その相手とは…… エゾシカでありました。あ～よかった！

二頭そろって、きょとんとした顔で、こちらを見つめているのです。そして、あっという間に、ピョ～ン、ピョ～ンと飛び跳ねるようにして森の中へ消えていったのです。私といえば、それをポカーンと見送っているではないですか。せっかく、カメラを手を持っているのにさ……。でも撮影にでかけると、こうした出会いも楽しみのひとつなのです。特に、初めて行く場所はいいですねエ。

ところで、途中の森林地帯は、湿気が多いらしく、シダ類やコケ類が多い。残念ながら、無知な私には何ひとつ名前がわからない。悲しいことです。やがて森をぬけ、尾根に出るとササ数がいっぱい。そこで、ぼつぼつとシャクナゲが咲いている。

少しばかりサカリを過ぎている様だ。木々の間から、十勝平野が見え始める。ず～と、ず～と向うまで地球が見えます。本当に北海道って感じの景色なのです。そんな目のホヨウをしながら、いよいよ、頂上到着！。およそ1hr程の登山。アポイ岳に比べれば楽なものです。その頂上から反対側に少し下がった所にあるガレ場が最終目的地なのであります。やれやれ、おつかれ様!!

さてと、問題は、彼らに逢えるかどうか？という事なのです。まゝ、2、3hrも粘れば一度くらい逢えるだろう！という気構えで行かなくちゃね。“よっしゃ!!がんばろう!!”おもむろに岩場を行き当たりばったり歩き回る私であった。食草のガンコウランはいたる所にあるが、咲いている花はフウロウくらいしかない。あとは、岩、いわ、イワのいたって殺風景！でも、空気がとてもおいしい。山に登るとこれが一番うれしい。それにしても30min程探し回ってみたが、全然いやしない。気温が低めだから、飛べないのかなぁ……。もうちょっと気温が上がってくれないとだめかも知れないなぁ……。と思いながらも、目をさらの様にして探し回る私なのです。と、目の中に小さな蝶が飛び込んできた。

シジミ蝶だ!! 高山植物を踏まない様に、岩の上をピョンピョンはねながら追いかける私なのです。もちろん目は彼から離せない。相手が小さいので一度、目を離すとすぐに見失ってしまう。でも、思っていたより彼の飛びかたはいたってゆるやか!

もうだいじょうぶ!! もう、こっちのもの!! ワクワク!!! おっ、ガンコウランの上にとまった。ラッキー!! 静かに、静かに近づく。翅のブルーが見える。オスだ!

そ～と近づく。すごい図鑑と全く同じだ!! (初物に出逢った時のいつもの口癖なのです) ちょっこそスレてるけど……とりあえず記念写真を一、二枚と、カシャ、カシャ次は、いよいよ本腰を入れて撮影をしなくては!翅を半開きにして止まっているので、下から裏面をのぞき込む。いつもながらの四つんばい撮影状態になってしまう。

この蝶のどこが好きかというと、この裏面の渋い色合いに澄色の紋、それに浮かび上がるブルーの斑、これにあこがれていたのであります。

いいんだなぁ、これが！ 本当がいいんだから 本当!! それに、黒いつぶらな腫付きとくれば、もう最高!!。

風はなかなかおさまらないものの、気温が少しずつ上昇してくると、あちらこちらで、彼も彼女もチラチラと飛び出し始めた。シャッターチャンスにも恵まれた。特に、求愛行動を観察出来たのはラッキー!! もちろん、交尾写真も撮れましたよ。ただし産卵行動までは観察できなかったのは残念でしたけどね。そんな訳で、3hr程、そこで幸せな時間を過ごさせて頂きました。

カラフトルリシジミ *Vacciniina optilete daisetsuzana*



①♂



①♀



①♂裏



①♀裏

観察してみると、彼らの行動範囲は、食卓のまわりに限られているみたいで、あまり遠くまで飛んでいく事はない様です。ですから、一度出逢うと、一匹でも十分に楽しめます。アポイのヒメチャみたいに、目の前に来たかと思うと、あっという間に飛び去ってしまうということはないみたいです。という事は、カラフトルリシジミは初心者向き特別天然記念物かもしれません。フムフム……。

こんな訳で、今回はなかなか良い旅でした。おまけに、帰る途中で立ち寄った林道では、な、なんと異種同志の交尾シーンの撮影にも成功してしまったのです。(ヒメキマダラヒカゲとヤマキマダラヒカゲ) これは、世界初の快挙にちがいないと勝手に思い込んでいる私なのです。(かなり思い込みが激しいみたいです。)

P. S

今年も、春のアポイ岳に行ってきました。二度目という事もあり、“ヒメチャ”の姿も知っているし、およその出現場所もわかっているので、ついに、飛んでいる姿のフィルムキャッチにも成功したんですよ！ すごい！

(ほとんど、ラッキーショットですが……) 今度、どなたかいっしょに行きますか?
朝、3時出発ですけど……。

〔カラフトルリシジミ〕 *Vacciniina optilete* シジミチョウ科

食 樹：クロマメノキ、コケモモ、ガンコウラン

生息環境：中部以東の高山帯、時に亜高山帯、ハイマツ

ガンコウランなどの小低木に高山性の草本が

混じる花畑周辺。道東では海岸沿いの高山的環境。

年1回、成虫は7～8月発生

参考文献：北海道の蝶（北海道新聞社）

P. S の P. S

4年ぶりに写真展を催す事に致しました。

藤田 正次 写真展

やちょうのうた
「野蝶の詩」

日 時：平成8年8月14日～20日

場 所：北電エレナギャラリー

頑張りますので、よろしくお願い致します。

とどのつまり

札幌市 川端 功治

下掲の記事は平成7年12月16日付けの北海道新聞に掲載された連載記事です。

記事の中程にある傍線箇所の「トドのつまりは二つに分かれ」は林業家が新人教育に良く使う言葉です。トドマツとエゾマツとが、どれが、なんであったかが、こんがらかった新人にとって有り難いご託宣なのです。ところが、魚類研究者から異議の指摘があったそうです。「トドのつまり」のトドは魚のことであるから、林業家は間違

った使い方をしているのではないかの事です。ところが林業家は逆に、この言葉の語源は日常用語として、広く熟知されているものとして、ひとひねりした冗句の積みりなのです。

何分にも荒っぽい仕事場です。転用語、すり替え語、なんでもユーモアに繋がって職場が和むことは結構な事としています。ところが不安があります。道



名前のように樹皮が赤褐色なのが特徴

樹木医ノート

◎ 小田島 悦

アカエゾマツ

アカエゾマツはエゾマツ、トドマツととも北海道を代表する自生の針葉樹で、一九六六年にエゾマツと併せて「北海道の木」に指定されている。天然には稚内近くから山地まで、また、ほかの樹種の内にもつ。条件の良い所では高さが三千尺にもなるが、福原などでは徒長状態で高さが一、二千尺以下のもも樹高目録以上のものが見られる。固質な材はヒヤノの構成になる。

人工森林の主
要樹種で、カラ
マツが伴樹。

北海道を代表する針葉樹

い、アカエゾマツ、エゾマツは徒長すると見栄えが良く幹が太い。また都立地の庭や公園に植えよむよう生育し、樹高が矮しく小さくても老木の風情が見られる。春の萌芽時期が早く六月に入る。その間に新葉が伸び、大きく育つ。大さくなつてからの再移植は非常に難しく、最初に植える場所の選定が大切である。開花樹では雄花が赤い、アラムシ、ハバチ類の被害が見られるが、大きな被害はない。

(北海道森林保全協会事務理事)

「おわり」

トドマツが枝枯れの大被害を受けたが、アカエゾマツは耐性が強く大きな被害がなく、近年造林面積が増加している。

観光バスで函館公園を走行すると、バスガイドさんがトドマツとエゾマツの見分けかたを後のつき方などで説明しているが、アカエゾマツとエゾマツの区別の説明はない。エゾマツはドロエゾマツとも呼ばれ、樹皮がやや黒っぽい褐色なのに対して、アカエゾマツの樹皮は名前の通り赤褐色で、見慣れるとすぐ見分けられる。

クリスマスツリーは本来モミの木を節用するが、本道ではモミの仲間トドマツとアカエゾマツが使われる。トドマツの葉の先は「トドのつまりは二つに分かれ」と言われるようにへちま状で、手で触るとも刺さらない。

アカエゾマツは徒長すると見栄えが良く幹が太い。また都立地の庭や公園に植えよむよう生育し、樹高が矮しく小さくても老木の風情が見られる。春の萌芽時期が早く六月に入る。その間に新葉が伸び、大きく育つ。大さくなつてからの再移植は非常に難しく、最初に植える場所の選定が大切である。開花樹では雄花が赤い、アラムシ、ハバチ類の被害が見られるが、大きな被害はない。

(北海道森林保全協会事務理事)

「おわり」

産子の若い人達にとってボラがトドに変身する生態を実感として理解しているかどうかです。

全国どこにでも分布する大衆魚ボラも北海道は道南迄となっていますので、馴染みの薄いお魚に違いありません。その為親方の折角の冗句もユーモアの出来損ねにな

ります。「すったもんだと争ったがトドの詰まりは離婚になりました。」と言うように、結果が良くなかった場合に使うのがこの言葉の生きた使い方なのです。

「好いた惚れたは若気の至り、トドのつまりは先き別れ」これは三味線を弾くお姐さんが歌っていた都々逸という俗曲です。お姐さんの解説に拠れば、親の勤める人と結婚せよと言う教えだそうで、たとえジジ、ババ付きでも財産を貰えるからと言う現実的な解釈でしたが、これでは、結婚適齢期の若い人達は頭にきてしまいましょう。

呑んべいの粹人が杯を重ねながら、ふと都々逸の「先き別れ」と、トドマツの葉の「先き別れ」とダブらせて、思い付いたのが冗句の始まりとでもしては如何なものでしょう。

ボラの生態については不明の点が多く、専門研究者の解説を受けたいところですが一般的に知られている事を参考までに列記してみます。

ボラはブリと同じ様に出世魚と称され、成長と共に名前が変わります。(ブリの例 関東-ワカシ、イナダ、ワラサ、ブリ。関西-ツバス、ハマチ、メジロ、ブリ)

ボラの呼び名は、イナ、エヒナ、エブナ、オオボラ、クロメ、サクシ、シロメ、スパシリ、ツボ、ナンシ、ババ、と多彩を極めるのは、それだけ水辺の住民とのお付き合いが親しかった証拠でもありましょう。

出世魚としてのボラを体長別に区別する地方があります。ハク(3cm位)、オボコスパシリ(5~10cm)、イナ(20cm位)、ボラ(30~40cm)、トド(50cm位)。

ボラは幼年期に川を上り、水田に迄入り込むので、色々な愛称が付けられて親しまれています。お祭りの花形はなんと言っても、ねじり鉢巻きの若衆です。〔イナセな兄さん! 待ってました!〕。ボラのイナと呼ばれる時期の背びれは、4本の刺に膜をピンと張った姿が大変「カッコイイ」。ねじり鉢巻きが、それに似ているので「イナの背びれ」これ即ち「イナセの兄さん」になるわけで、間違っても「イヨー! ボラあたま」等と声を掛けてはいけません。張り倒されるだけです。

ボラは成熟期には川を下り、汽水域(淡水と海水とが混合しているところ)に入ります。待ち受けた釣り人との駆け引きがはじまり、よく水面を跳ねる様など、長閑かな風物として描写されていますが、油臭いとか、泥臭い等調理の面では評価が低いのは訳があります。ボラの食べ物は泥と藻類という変わった魚で、有機質は丸飲みにし

た泥から摂取する為に、歯が退化した特殊な口で、胃袋も算盤玉の様な形に肥厚しています。この胃袋が「へそ」と愛称され、そのコリコリ味は飲み仲間の酒の肴として絶賛されています。

10月から翌年2月頃産卵の為に外洋に回遊するようになると、俄然寒ボラとして人気が高まります。塩焼き、あらい、鍋物に大活躍というところでしょう。

宮中御用達の旬の味として「名よし」と言う味噌なます用に納品されるそうです。

忘れてならないのは「カラスミ」と称する珍味の事です。ボラの卵巣を塩漬けにして、天日干しにしたもので、形が「唐墨」に似ているから「唐」をカラと読んで「カラスミ」と称する大変に高価な珍味です。

この様に高い評価を受けたボラも、老魚となってランク落ちして遠い外洋にその姿を消します。その老魚がトドと言う訳です。トドの語源は「止め—とどめ」ではないかと言う説がありますが、確たるものは無い様です。トドと言う名に変えられた老魚に漂う悲哀。民族の言葉には地域毎に、それぞれの永い歴史があって、深い味わいがあります。引用するとしても、きめ細かい心配りが必要であることを感じます。こちらでトドのつまと致します。

参考書 北日本魚類大図鑑
食材図館
魚大全
大辞泉



ボラ (Mugil Cephalus Linnaeus)

本の紹介

BOOK

竹田津 実 著

北海道動物記

平凡社 1996.1.15 発行

定 価 980円

昨年4月の下旬、札幌近郊の山、百松沢山を登った時のことです。ほどよくしまった硬雪の上をつば足で気持ちよく、源八沢コースを登って行きました。幾つかの起伏を越えてい時です。さっと、目の前を小動物が横切りました。30mほど先のところで、その動物は止まりました。エゾユキウサギです。

真冬の純白の毛ではなく、背中が灰色のような茶色のようなまだら模様のうすよごれた感じでした。表面の汚れた雪面となんとなく同類項のようです。

北海道動物記の「エゾユキウサギ」の項で、ケージの中に飼われている個体を観察したくだりがあります。それによると、10月の中旬、足の先端、下腹部、またいたるところが白い差毛がみられ、なんとなくロマンスグレーに変化し、気づくと白になっていくと述べています。背部や額部はかなり遅く、ほぼ真白になるのは12月も半ばを過ぎていたと観察結果を記述しています。

冬毛から夏毛へ春の毛変わりは、冬の毛変わりよりあいまいで、年齢、栄養状態その他の要素によるものだろうと推測しています。

著者は御存じ 竹田津 実氏です。著書の中にイイズナ、エゾタヌキ、エゾモモンガ、トド、シマリス、エゾシカ、銀ギツネ、エゾリス、ゴマフアザラシ、キタキツネ、エゾユキウサギ、サケの12種との動物のかかわりを小説風に興味深い文体で展開させています。

この書は「のんべい獣医の動物記」平凡社のライブラリー化であり、姉妹本として「北海道野鳥記」があります。

観察会研修会 情報

平成8年度に主催する北海道ボランティア・レンジャー協議会の自然観察会一覧

- *環境月間協力行事「野幌自然観察会」野幌森林公園
平成8年 6月 2日(日) 9:30~12:00 下見 平成8年 5月26日(日)
集合場所 野幌森林公園「森の自然教室」前
- *「ニセコの自然」 神仙沼周辺
平成8年 6月30日(日) 10:00~12:00 下見 平成8年 6月29日(土)
集合場所 共和町神仙沼休憩所駐車場
- *「恵庭の自然」 恵庭公園
平成8年 7月14日(日) 9:30~12:00 下見 平成7年 7月7日(日)
集合場所 恵庭市恵庭公園駐車場
- *「真駒内公園の自然」 真駒内公園
平成8年 8月11日(日) 9:30~12:00 下見 平成7年 8月4日(日)
集合場所 札幌市南区地下鉄真駒内駅前
- *「野幌自然観察の集い」 野幌森林公園
平成8年 9月 1日(日) 9:30~12:00 下見 平成8年 8月25日(日)
集合場所 野幌森林公園「森の自然教室」前
- *「利根別の自然」 岩見沢市利根別自然休養林
平成8年 9月29日(日) 10:00~12:00 下見 平成8年 9月22日(日)
集合場所 岩見沢市利根別自然休養林駐車場
- *「野幌の自然」 野幌森林公園
平成8年11月17日(日) 10:00~12:00 下見 平成8年11月10日(日)
集合場所 野幌森林公園内北海道開拓記念館前
- *「野幌の森の冬」 野幌森林公園
平成9年 2月23日(日) 10:00~12:00 下見 平成9年 2月16日(日)
集合場所 野幌森林公園内北海道開拓記念館前
- *「滝野の森を歩く」 滝野すすらん丘陵公園
平成9年 3月 2日(日) 10:00~12:00 下見 平成9年 3月1日(土)
集合場所 札幌市南区 滝野すすらん丘陵公園溪流口駐車場

平成8年度北海道野幌森林公園事務所主催で
北海道ボランティア・レンジャー協議会が協力する自然観察会
(野幌森林公園で実施)

*** 4月の森の観察会** 平成8年 4月18日(木) 10:00~12:00 下見 4月16日(火)
集合場所 北海道開拓記念館前

*** 春の森の観察会** 平成8年 5月19日(日) 9:30~14:00 下見 5月12日(日)
集合場所 野幌森林公園大沢口 大沢口→エゾユズリハ→シキビ→大沢園地→カツラの約5.6Km

*** 7月の森の観察会** 平成8年 7月18日(木) 10:00~12:00 下見 7月16日(火)
集合場所 北海道開拓記念館前

*** 8月の森の観察会** 平成8年 8月 1日(木) 10:00~12:00 下見 7月30日(火)
集合場所 北海道開拓記念館前

*** 秋の森の観察会** 平成8年10月20日(日) 9:30~14:00 下見10月13日(日)
集合場所 野幌森林公園大沢口 大沢口→エゾユズリハ→シキビ→大沢園地→カツラの約5.6Km

*** 12月の森の観察会** 平成8年12月 5日(木) 10:00~12:00 下見12月 3日(火)
集合場所 北海道開拓記念館前

*** 1月の森の観察会** 平成9年 1月 9日(木) 10:00~12:00 下見 1月 7日(火)
集合場所 北海道開拓記念館前

*** 冬の森の観察会** 平成9年 3月23日(日) 9:30~14:00 下見 3月16日(日)
集合場所 野幌森林公園大沢口 大沢口→大沢園地→カツラコースの約3.6Km

詳細についての問い合わせ先

北海道野幌森林公園事務所公園管理部公園利用課

〒003 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 電話(011)898-0455

平成8年度北海道石狩支庁自然教室

◇「自然教室」 平成8年7月14日(日)を予定

新年度の他機関・団体で行う研修会

ボランティア・レンジャー（自然解説員）としての、学識を向上するためや仲間を増やす研修会が、下記のように計画されています。

新年度に入ってから確定することになりますので、それぞれの問い合わせ先に照会してください。

1 ボランティア・レンジャー育成研修会

平成8年7月19日（金）から21日（日）までの3日間

石狩郡月形町月形温泉 花工房

北海道保健環境部環境室保全係 〒060 札幌市中央区北3条西6丁目北海道 ☎(011)231-4111

2 森林とみどりの技術者養成セミナー

フォレストガイド養成講座（1） 平成8年5月21日から24日 4日間

フォレストガイド養成講座（2） 平成8年9月17日から20日 4日間

美瑛市光珠内町東山 北海道立林業試験場

北海道立林業試験場専門技術員室 〒079-01 美瑛市光珠内町東山 ☎(01266)3-4164

お願い

平成8年度、各地で行われる研修会・観察会の情報をお持ちでしたら、ぜひ下記へお知らせ下さい。「エゾマツ」を通して、会員の皆様へ情報を提供いたします。

広報部（札幌市東区東苗穂11条2丁目897 田村 允郁）

編集後記

弥生3月です。「弥生」とは、草木がいやが上にも生い繁るという意味あるそうです。西欧でも、March（3月）はローマの軍神（Mars）がローマ建設の神として崇拜されたので、ものみな躍動を始めるこの月の名に付けたと言われています。

世の東西を問わず、3月は生命のいぶきを感じずる月なのでしょう。

この3月は、平成7年度の活動が終了する月でもあります。今年度の活動にご協力いただいた会員の皆様にお礼申し上げますと共に、次年度も積極的な投稿を心より期待しております。

北海道ボランティア・レンジャー協議会

会報誌「エゾマツ」36号 1996.3.25 発行

発行責任者 大友 健

（表紙題字 岡田 元北海道生活環境部長）